

【研究一様式1】

「令和元年度研究実践園研究事業」実施計画書

園名	札幌市立ひがしなえぼ幼稚園	園長氏名	山下 幸子
研究協力園 研究協力校	札幌市立東苗穂小学校		
研究主題	<p>「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 視点～主体的・対話的で深い学びの充実～</p> <p>副主題『きらきら わくわくする遊び』とは</p>		
研究の目的	<p>・一人一人の幼児が心と体を動かしながら、友達と一緒に遊び込み、遊びを深めていくことができるような教師の関わり方や環境の構成について研究する。</p>		
研究内容・方法	<p>内容 主題に向けての実践</p> <p>方法 ○ビデオカンファレンス ・保育実践を通して遊びを丁寧に見取り、幼児理解を深めながら教師の援助や環境の構成について検証する。</p> <p>○小学校との連携 ・学びの連続性について、より見識を深めるために研究交流会を開催する。</p> <p>○大学との連携 北海道教育大学札幌校 中島准教授の研究 ・幼児のコミュニケーション量を通して、(ビジネス顕微鏡)客観的な視点から教師の援助の在り方を分析する。</p> <p>○私立幼稚園との連携 ・区内私立幼稚園、認定こども園の保育見学に参加し、遊びの重要性について学び合い、意見交流から得た成果をまとめて発信すると共に自園の研究に生かす。</p>		
公開保育等	<p>札幌市教育センター専門研修 (特別な教育的支援を必要とする幼児の指導) 【日時】7月4日(木) 9:30~16:45</p>		
助言者			

【研究一様式2】

「令和元年度研究実践園研究事業」実施報告書

園名	札幌市立ひがしなえぼ幼稚園	園長氏名	山下 幸子
研究協力園 研究協力校	札幌市立東苗穂小学校		
研究主題	<p>「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 視点～主体的・対話的で深い学びの充実～ 副主題『きらきら わくわくする遊び』とは</p>		
	<p>★『遊び込む』姿を育むために必要な援助や環境</p>		
	<p>＜わかってきた教師の援助＞</p> <p>3歳：教師も一緒に遊びを楽しみ、一人一人が好きなことにどっぷりと浸ることができるような関わり。</p> <p>4歳：互いの思いを十分に出し合えるようにし、自分たちで考え合えるように導く支え。</p> <p>5歳：子どもたちに遊びを委ね、友達同士で遊びを進めていく姿の見守りと支えどころの見極</p>		
	<p>＜わかってきた環境の構成＞</p> <p>3歳：安心して、繰り返し遊ぶことができる、目に見えて分かりやすい環境</p> <p>4歳：遊びのイメージが共通になり、友達とつながりがもてる環境。</p> <p>5歳：自分で考え、試行錯誤する時間がたっぷりと保障されている環境。</p>		
研究の成果	<p>★主体的・対話的で深い学びに繋がる力</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">3歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組むことのおもしろさを感じ、夢中になって遊びに浸れる。 ・憧れてやってみたい気持ちから、やってみて幼児なりに気付ける。 </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">4歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達同士で「こうしよう」「ちょっと待って、こうしたら」等、思いや考えを言い合ったり、「いいね」と賛同したりできる。 ・『次はこうしたい!』と自分で考え、個々に目的に向かえる。 </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">5歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びを作り出し、進めていける。 ・自分の考えを相手に分かるように言葉で伝え合える。 ・どうすると良いのか自分達で考える。 </div> </div> <p>★小学校との合同研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の主体的な遊びを通して育まれたことは、小学校の学習につながっていくことが具体的に見えてきた。幼稚園から小学校への段差を子どもが自身で乗り越えられるように、今後も幼小の連携に取り組んでいきたい。 <p>★札幌市幼東区合同研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの園を訪問し、保育の実際を参観して情報交流を図った。今後も自ら遊び込む幼児の姿と教師の役割について、共に考える機会を大事にしていきたい。 		

わくわくする遊びや環境

きらきらと遊び込む姿

